

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4079600377
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー
事業所名	いきいきハウス池尻
所在地	福岡県田川郡川崎町大字池尻字亀田887番地1 電話 0947-49-3705

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成22年3月20日	評価確定日	平成22年4月3日

【情報提供項目より】(平成 22 年 3 月 5 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 4, 8 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨スレート 造り 1 階建ての 1 階 ~ 階部分
------	-------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費10,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日あたり 800円			

(4) 利用者の概要(3月 5日現在)

登録人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	5	要介護2	2
要介護3	1	要介護4	
要介護5		要支援2	1
年齢	平均 82.1 歳	最低 72 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人池尻診療所 吉川歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設7年目のいきいきハウス池尻は1ユニットのグループホームで、付近には池尻小学校や池尻診療所、郵便局があり、旧国道沿いの広い敷地の奥に建てられ、入り口に祀りしたお地藏様に入居者が毎日お茶をお供えしたり、玄関付近にベンチや犬小屋、花壇が作られるなど家庭的な環境づくりをしている。登下校時の子どもたちの声や姿がホームから見え、子ども110番をはじめ池尻小学校との交流が盛んで七夕交流会や、社会科見学、職場体験等を引き受け、日頃から小学生が立ち寄りしている。開設当時より自治会に加入し、地域の敬老会や清掃活動、ウォーキング大会へ入居者と職員が参加している。医療連携体制等で入院や重度化を回避したり、入居者のお墓参りや思い出の場所への同行や、買い物や外食、行きつけの美容室の送迎を支援することで、ケア目標の「入居者が長生きして良かった」「家族に安心していただける」「笑顔と真心で」を実践している。町報だよりに「介護に困ったときはこちらまで」とホームの認知症の相談受け入れが掲載され、これまで2件の相談を受けるなど、地域の福祉情報発信の拠点として期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を受けて改善シートを作成し、個人情報の保護に関する規程や個人情報利用目的を明記した書面を整備し掲示している。重度化や終末期に関する指針や意向確認書とマニュアルを整備し、地域権利擁護事業や成年後見制度のパンフレットを整備している。また、災害対策のマニュアルの整備と年2回の避難訓練の実施や備蓄の整備など改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) これまで外部評価を受けた経験のある職員は、現状を振り返る機会と受け止めている。今回は新人職員が多く自己評価は運営者がまとめ、全職員で読み合せをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議の実施要領を整備し、ホームドクター、区長、家族会代表、行政担当者、管理者の出席で2ヶ月毎に開催し、入居者の状況、取り組みや行事予定、外部評価の報告等を行い、家族の要望や出席者の意見など会議録を整備している。感染予防の意見には包括支援センターからアドバイスを受け新型インフルエンザの予防に努めている。転倒事故報告に対する意見を活かして緊急対応マニュアルを整備している。欠席者には会議録を郵送している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 重要事項説明書に事業所、行政機関の窓口を明記し玄関に掲示しご意見箱を設置している。1ヶ月1回以上は、家族に来ていただくことを入居時にお願している。家族の訪問時には何でも言える雰囲気作りに配慮している。3ヶ月ごとに家族会が自主的に開催され、家族同士で話し合っている。代表が運営推進会議に出席し、ホームの取り組みに関して意見を出力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 設立時より地区自治会に加入し、回覧板の受け渡しを入居者と行っている。地域の敬老会、空き缶拾い、草取りや清掃活動などに入居者と職員が共に参加している。町報だより「介護に困ったときはこちらまで」と認知症の相談受け入れが掲載され、これまで2件の相談を受けている。子ども110番や、小学校の校外授業、5年生の職場体験授業の受け入れ等、日頃から小学生が立ち寄り、毎年ホーム前庭で地域の盆踊りや獅子舞があり入居者の楽しみになっている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの方針を運営規程、重要事項説明書に明記し、「個人の尊厳を守り、その人らしい生活、穏やかな安心と満足ある暮らし、家庭的な楽しい雰囲気」を理念とし、玄関に掲示している。また、ケア目標として「入居者が長生きして良かった」「家族に安心していただける」「笑顔と真心で」を掲げて日頃から実践している。	○	地域密着型サービスの方針を理解し、運営規程や重要事項説明書に明記されているので、地域の中で安心して暮らしや関係性の継続が反映できるような理念の見直しを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が毎朝の朝礼やカンファレンスで理念とケア目標を唱和し、確認し合っている。管理者は職員採用時や新人研修やミーティングで理念について説明し、理念の理解や共有を進め「その人らしい暮らしの継続」を支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立時より地区自治会に加入し、回覧板の受け渡し等を入居者を行っている。自治会の敬老会、ゴミや空き缶拾い、草取りや清掃活動等に入居者と職員が共に参加し、地元小学校とも交流が盛んで、子ども110番や、日頃から小学生が立ち寄りったり、毎年ホームの前庭で地域の盆踊りや獅子舞があり、入居者の楽しみになっている。町報だよりに認知症の相談受け入れが載り、これまで2件の相談を受けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けた経験のある職員は現状を振り返る機会と受け止めているが、今回は新人職員が多く外部評価の意義や活用には至っていない。自己評価は運営者がまとめている。前回の評価結果を受けて改善シートを作成し、個人情報に関する規程や個人情報利用目的を明記した書面を整備し、掲示している。重度化や終末期に関する指針や、意向確認書とマニュアルを整備している。また、災害対策のマニュアルの整備と年2回の避難訓練の実施や備蓄の整備など改善している。	○	自己評価を、日ごろの介護を振り返る機会と捉え、自己評価を全職員で取り組んでいただきたい。また、今回の外部評価の結果を全職員で話し合い、改善点を共有できるようにお願いしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施要領を整備し、ホームドクター、区長、家族会代表、行政担当者、管理者の出席で2ヶ月毎に開催し、入居者の状況、取り組みや行事予定、外部評価の報告等を行い、家族の要望や出席者の意見など会議録を整備している。感染予防の意見には包括支援センターからアドバイス受け感染予防に努めている。転倒事故報告に対する意見を活かして、夜間の緊急対応マニュアルを整備している。欠席者には会議録を郵送している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時に行政担当者に入居者の相談や、情報提供をお願いしている。地域包括支援センターへ新型インフルエンザ等の予防対応の相談をするなど、アドバイスを活かしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	管理者は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する研修に参加し、パンフレットを整備し、家族への対応録様式を整備している。パンフレットを使って職員の内部研修を実施している。入居者の成年後見制度の活用を検討し申請手続きを、地域包括支援センターと相談した経緯はあるが、身内が名乗り出て利用には至らなかった。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居時毎月1回以上の訪問をお願いしているので、家族訪問時入居者の暮らしぶりやホーム内に掲示している行事等の写真を見てもらったり、介護計画の説明や意向を報告し、同意のサインを得ている。協力医や訪問看護等で健康管理を支援している。受診状況や受診予約、検査結果等は随時電話で報告し記録している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所、関係機関の苦情相談窓口を明記し、玄関に掲示し、ご意見箱を設置している。家族の訪問時には何でも言える雰囲気作りに配慮している。家族会が3ヶ月毎に自主的に開催されている。家族代表が運営推進会議に出席し、意見や要望を出している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は入居者の特性を理解し系列事業所の異動も年間1~2人に抑えているが、高齢者とコミュニケーションが取れない新任職員は定着しない傾向がある。職員の資格取得や福利厚生で、離職を防ぐよう努めている。入居者に新規採用職員の紹介はするが、離職した職員は系列事業所へ行っていると説明する等、主任職員の気配りで入居者の影響を最小限に防いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークを活用しているが、性別・年齢・資格の有無での制限はなく、「高齢者や介護が好きであること」を優先している。就業規則・雇用契約書を取り交わし、守秘義務を謳った誓約書の提出を求めている。有休休暇の取得や、年1回の定期健康診断も支援している。職員旅行や親睦会を実施し、交代で事務所で休憩をしている。介護福祉士等の資格取得等も支援している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	契約書に入居者の権利として身体拘束・虐待防止を明記し、身体拘束・虐待防止のマニュアルを整備し、身体拘束排除宣言を玄関に掲示している。人権教育・啓発活動のパンフレットを整備し、身体拘束防止や虐待事例の勉強会を実施し、研修録を整備している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、系列事業者と合同で計画に沿って参加者名、研修内容の記録が整備されている。欠席者には資料を配布している。外部研修は適任者の受講を支援し、外部研修参加者は、朝礼で伝達講習や資料配布して研修内容を共有している。職員の悩みや相談ことは主任が対応している。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国高齢者グループホーム協会に加入し、年次大会への参加や情報交換、相談等行っている。系列のグループホームと共同でレクリエーションや夏祭りを実施している。また、緊急受け入れなど業務連携先の介護老人福祉施設と交流している。	○	地域の地域密着型サービスと連携しながら、サービスの向上や職員育成に繋がる交流の機会を行政に働きかけてはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学や、行事に参加してもらったり、体験入居などを勧めている。クリスマス会や餅つき大会等ホーム行事に参加して入居を決める方もいる。近々の入居者2名は、入院中から入院先に訪問し面談し、ケースワーカーやケアマネジャーと連携して情報収集やカンファレンスへの出席等、合意を得て安心感を持って暮らしていけるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	長期入院後に入居された方がホームでの暮らしで顔色が良くなり、意欲的に毎日過せるようになっていく様子に職員は、やりがいを感じている。入居者から干し柿を干す時は北向きに干すとハエが寄ってこない等、暮らしの知恵を教わったりしている。昔の暮らしを話題に、入居者と一緒に野菜の皮むきや下ごしらえなど一緒に和気藹々と昼食をつくり、和やかに生活を楽んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や職歴をアセスメントし、日々の関りや会話の中から、入居者一人ひとりの思いや希望を汲み取る努力をしている。把握した意向を生かして、「その人らしい暮らし」の実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者と主任が連携して、入居者や家族の意向を記載した個別性のある介護計画を作成している。作成した介護計画は入居者や家族に説明し、了承の署名がある。	○	職員の担当制を活用し、担当の気づきやアイデアを反映したより具体的で個別性のある介護計画を作成するためにも、スタッフ全員の話し合いによる介護計画の作成と、計画の共有をお願いしたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	主任が入居者の状況を計画作成担当者に報告し、3～6ヶ月でモニタリングを実施し、介護計画の見直しをおこなっている。見直した介護計画は入居者や家族に説明し、家族の署名がある。	○	介護計画の実施状況や効果を評価すると共に、現状に応じたサービスの提供に繋がるように、入居者の状態変化や状況をスタッフ全員で話し合い、現状に応じた介護計画の見直しをお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かして酸素療法を支援している。入居者や家族の状況に応じて、通院の同行や医療機関と連携し、入院や重度化を回避している。入居者の希望に沿って一人暮らしの入居者のお墓参りや思い出の場所への同行や、買い物や外食、行きつけの美容室の送迎を支援している。入院先の医師と連携し、3日ごとに入院先を訪問し洗濯物の世話など早期退院を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なホームドクター受診と訪問看護で健康管理を支援している。希望する精神科、眼科、歯科等の受診を支援し、家族同行の受診時はバイタル等の情報の持参を支援し報告を受けている。管理者や職員が受診に同行した場合は、受診結果を随時電話で家族に報告し、記録を整備している。検査結果は個別ファイルに記録して整備している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度化した場合や終末期に関する指針を整備し、入居者・家族の意向の確認書と対応のマニュアルを整備している。重度化した入居者はいないが、今後は具体的な事例に応じて、主治医・訪問看護師等でグループホーム療養介護計画書の作成に取り組み支援する予定である。	○	看取りを実施する場合は職員の意識を統一するためにも、ターミナルケアの研修をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護に関する規程や、個人情報の利用目的を明記した書面を整備し、事務室に掲示している。また、運営規程や契約書に個人情報の取り扱いや守秘義務を明記し、ホーム内で研修し周知している。職員は守秘義務の誓約書を交わし、入居者の人権やプライバシーを配慮したケアで穏やかな声かけで支援している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大枠の予定はあるが、入居者一人ひとりのその日の意向や気分、体調に合わせて過してもらう様に支援している。食後のタバコを事務室で一服したり、犬の散歩を楽しみにしている入居者、お地藏様に毎日お茶をあげるのを日課にしている入居者、写経や図書館の利用など、入居者の意向に沿った毎日を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物の目利き、カレーの野菜の皮むきや下ごしらえなど職員と一緒に昼食を作ったり、下膳や片付けを支援している。誕生会にはリクエストに応じている。毎月1～2回の外食や、お彼岸のおはぎや季節の花見弁当など楽しんでいる。職員も伴食しながら味付けを話題に介助している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに午前と午後でゆっくり入浴を支援している。月に2～3回希望者に18時からの夜間入浴にも取り組んでいる。また、2ヶ月に1回隣町の温泉施設に出かけ、全員で温泉を楽しんでいる。現在入浴拒否者はいないが、入浴拒否には家族にお願いすることもあるが、無理強いはせず支援することになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴や得意分野を活かして、季節の野菜作りや料理、ラッキョウ漬け、お地藏様や不動様のお世話などの出番を作っている。ホームに入居後始めた写経は100枚目標に書き上げたら篠栗へ奉納しようとか、貼り絵の作品作りや食後の一服を楽しむ男性入居者など、それぞれの入居者が自分の楽しみを持って生活している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間と月間の行事計画を作成し、系列事業者と合同の敬老会、温泉行き等のイベントや季節の花見や外食などに出かけている。1ヶ月前から外出予定がリビングに掲示され、近隣の菜の花や桜見物にお弁当を作って出かけている。お天気の良い日は犬の散歩やドライブ、スーパーへ買い物等一人ひとりに合わせて個別的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけずに見守りで対応している。現在、外出傾向のある入居者はいないが、地域の交番に入居者リストを提出し、協力をお願いしている。行方不明対策用に全入居者の身長・体重を記入した顔写真、全身写真、靴などを写真に撮り、事故防止に備えている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや緊急連絡体制を整備し、消防署と合同で年2回避難訓練を実施し、記録を整備している。区長や地元の消防団に日頃より協力をお願いをしている。消火器を整備し、缶詰等を備蓄している。災害から教訓を得るよう札幌のグループホーム火災の記事を事務所に掲示し、火の用心を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は1日1600Kcalを目標に作成し、入居者の状況に応じた栄養摂取を支援している。また水分摂取1500ccを目標に支援し便秘の解消に努めている。個人記録に食事と水分摂取量を記録し、毎月2回体重測定を行い記録し、体調の変化に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い庭の一角にベンチが設置され犬が飼われている。玄関横には花壇があり、パンジーなど季節の花が植えられ家庭的である。車椅子対応の玄関からアコーディオンカーテンを開けるとバリアフリーの共用空間でオープンキッチンの前にはテーブルや椅子が並び、その奥にはゆったりしたソファがコの字に置かれ大型テレビが設置されている。壁には入居者の手作りの貼り絵や習字などの作品と、花見や行事の写真が沢山掲示され入居者は夫々気に入りの場所で寛いでいる。共用空間に2箇所のトイレと浴室の入口が並んでいるが、防臭対策がとられ、居心地よく過ごしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には表札と目印の花飾りや赤い羽根がつけられ、引き戸には好みの暖簾などを掛けている入居者もいる。居室の窓から広い畑のピースや空豆の緑が季節を感じさせる。ベットは備え付けだが、馴染みの箆笥や籐椅子、日用品、テレビなどが置かれ、お不動様や家族の写真、自作の作品が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫してある。		